DNSルートプレフィックスの取り消し

• DNSルートプレフィックスの取り消し （1 ページ）

DNSルートプレフィックスの取り消し

IANA によって割り当てられ、OpenDNS と Google によって提供されるサーバーを含むパブリック DNS ルートサーバーは、通常のルータ操作がパブリック インターネット ルーティングに参加するために必要です。このアラームは、DNS サーバアドレスが属する一連のプレフィックス（ネットブロック）をモニタします。セット内のいずれかのプレフィックスが取り消されると、ユーザに警告します。

（注） このアラームは [プレフィックスの取り消し（Prefix Withdrawal）] アラームとは異なります。これらのプレフィックスは、ユーザがサブスクリプションで消費するプレフィックスの合計量に追加されず、アラームルールにリンクされたピアからの取り消しだからです。

考えられる検出される問題

このアラームは、既知のルート DNS サーバプレフィックスがモニタ対象ピアのルーティングテーブルから削除されたかどうかを検出します。このアラームは、DNS ルートサーバーの撤回につながるインターネットルータの不良構成を特定するのに役立ちます。

関連するアラームルールの設定

このアラームルールをピアポリシー設定に追加する場合は、次のオプションを設定する必要があります（[外部ルーティング分析（External Routing Analysis）] > [設定（Configure）] > [ポリシー（Policies）] > [ポリシーの追加（Add Policy）] > [ピアポリシー（Peer Policy）] > [ルールの追加（Add Rule）] > [DNSルートプレフィックスの取り消し（DNS Root Prefix Withdrawal）]）。

• 監視対象の DNS ルートサーバー

DNSルートプレフィックスの取り消し

例

[DNSルートプレフィックスの取り消し（DNS Root Prefix Withdrawal）] アラームルールを使用してピアポリシーを作成し、ピア RTR1 にリンクします。プレフィックス 198.41.0.0/24（A ルートサーバ）および 2001:7fd::/48（K ルートサーバ）に対するアラートを受け取ることを選択します。アラームは、これらのプレフィックスのいずれかが RTR1 によって取り消されるとアクティブになり、両方がアドバタイズされるとクリアされます。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。